

北信越ブロック研究大会（報告）



（発表者）北信越ブロック代表
長野県リーダー会

研究大会テーマ スキルアップ～違う視点から見てみよう～

- ・テーマ設定の理由

スポーツ少年団で活動するリーダーとしてこれまでの視点にとらわれることなく様々な観点から目を向けることで知見を深め今後の活動に活かしていけるようにした。

○日程 平成30年10月27日(土)～10月28日(日)

○場所 長野県 長野市青少年錬成センター

参加対象

リーダー、育成担当指導者（若手指導者） 各県10名

	福井県	石川県	富山県	新潟県	長野県	合計
リーダー	1名	8名	5名	2名	9名	25名
指導者	1名	2名	1名	2名	1名	7名
合計	2名	10名	6名	4名	10名	32名

経費 参加料:3,000円 交通費:自己負担

○運営の体制○

運営スタッフ：長野県リーダー会高校生以上リーダー・スポーツ少年団指導育成部会
また、研究大会開催にあたり各県代表者2名参加による事前会議を実施し(9月)、出席した各県リーダー代表にも運営の協力をいただいた。

運営方法：リーダーを主体に運営

日 程

1日目 10月27日(土)

- 13:00 受付
- 13:30 開会式
- 14:00 各県活動報告
日独同時交流活動報告
- 15:00 アイスブレイク
- 15:30 障がい者スポーツ体験
- 18:00 夕食
- 19:00 障がい者スポーツ体験を振り返る
- 19:30 班別ディスカッション
- 20:30 入浴・自由交歓

2日目 10月28日(日)

- 6:30 起床・荷物整理・掃除
- 7:30 朝食
- 8:30 掃除・活動準備
- 9:30 班別ディスカッション(ACP)実践
- 11:30 ACP改善・成果発表
- 12:00 昼食
- 13:00 旗作り・記念撮影
- 14:00 閉会式

◆プログラム概要

＜障がい者スポーツ体験＞

長野県障がい者スポーツ協会より講師を派遣いただき体験を行った

体験種目：①ボッチャ ②シッティングバレー

(講師)

長野県障がい者スポーツ協会

地域コーディネーター 加藤 正 様

- ・長野冬季パラリンピック 出場
- ・シッティングバレー強化指定選手



◆プログラム概要

①ボッチャ体験

- ・年齢問わずチームが組め、競技としての認知度も高いため参加者も経験したことがある人が多かった

競技者として体験したことがある人が多かったため、
審判のやり方を詳しく説明していただき、チーム毎交代で実践



審判を経験できたことで、
各県・単位団でも交流活動の
一環として運営が可能に



◆プログラム概要

②シッティングバレー

通常のバレーと違い腰から下を床より浮かせるとルール違反となる

(1)まずは怪我をしない
ように体勢を確認



(2)円形を組んでトス練習



(3)いざ、試合



チーム対戦は
うまく試合が
できず



動きが制限されるのでバレー経験者も思うように身体が動かない・・・

全員参加
の試合に

◆プログラム概要

(障がい者スポーツを体験を振り返る)

今まで思っていた事、体験してみても変化した事を書き出してもらった

(一例)

○今まで感じていたこと

- ・障がい者スポーツの認知度が低い
- ・身体に障がいがある方は生活が大変そう
- ・どう接していいかがわからない

○体験して変化したこと

- ・健常者より障がい者の皆さんの方が現状を楽しむようにスポーツをしていると感じた
- ・思っていたよりルールは簡単で誰でもできるし一緒に楽しめる
- ・できる、できないのボーダーラインを決めていたのは自分たちで、工夫すれば一緒に活動できる

○これからやっていきたい事

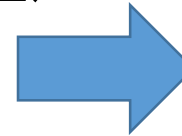
- ・もっといろいろな障がい者スポーツを体験し、一緒に試合ができるようになりたい！！
- ・今回の経験を周りに伝えていき、障がい者スポーツについてもっと知っていきたい、広めたい
- ・東京パラリンピックが楽しみにになった、注目していきたい

◆プログラム概要

＜班別ディスカッション＞ ACP考案・研究大会の今後を考える

◎ディスカッション班分け

- ・中学生 班（アドバイザーとして高校生の運営委員1名配置）
- ・高校生 班（リーダー活動歴が5年未満）
- ・高校生・社会人班（高校生はリーダー活動歴が5年以上）



昨年度の研究大会で
中学生主体の班を編成
一定の成果があったため
本年も中学生主体の班を編成



中学生と高校生班はACPを考案し、高校生・社会人班は今後の研究大会の活動方針を検討



◆プログラム概要

＜ACP実践＞

実践するにあたって各自に役割分担し、注意点や改善点の書き出しを行った

ACP考案班・・・ 実技参加者目線

高校生・社会人班・・・ 指導者・運営リーダー目線

（実践を行う上で工夫したこと）

- ・各自の見る目線を定めることでの的確な意見を出せるように工夫する
- ・付箋で書き出す方式にしたことで思った事をそのまま記入することができる
- ・目線を決めた事で観察力を養い参加者が今後
リーダー ⇒ 指導者 に近づいていくためのステップアップの
きっかけづくりとした



◆プログラム概要

＜ACP改善 成果報告＞

参加者が記入した意見をもとに考案したACPをブラッシュアップ
具体的に変更した点を全員の前で報告した

高校生・社会人班は今後の活動方針の話し合い結果の発表



(ACP活動全体を通して)

- ・普段「運営」という立場になる機会があまりなく、今後リーダー活動を積極的に行っていく上では必ず必要になるスキルになる。
運営をスムーズに行うためには経験を積んでいくことが重要であり、その機会はこれからも研究大会でつくっていく。
- ・ACP自体は対象年齢が幅広い活動になるので、対象者に合わせた工夫が必要。その点を指摘する意見が多かったのでどの年代も学ぶ場になった。中学生には運営方法を含め特にいい経験になったと思う。



大会を開催した成果、反省、課題

（成果）

- ・外部講師を招いてプログラムを行った事で、新たな見識を深めることができた。外部講師を招いての活動は中々単位団活動では行えないので参加者・指導者含めとてもいい機会になった。
- ・中学生主体の活動方法を取り入れたことで、中学生リーダーの発言機会が増え、積極的に意見を言える環境を作る事ができた。

（反省）

- ・運営が混乱する事が多かったので事前の役割分担などの明確化はもっと細かくやらなければならなかった。また事前会議に参加した開催県以外のリーダーにも運営協力をいただく場合は事前会議である程度分担できるように事前会議を有意義な場とする工夫をしていく必要がある。

（課題）

- ・何回も参加しているリーダーも増えてきているため活動内容を発信するなどして新規参加者を増やし、各県のリーダー活動を活性化させる方法を考えていく。